

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害発生情報）

令和元年5月23日

島根県病害虫防除所

トマト茎えそ病及びピーマンえそ輪点病の本県での発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】

平成31年4月、県東部の施設栽培のトマト及びピーマンにおいて、茎のえそ、葉のえそや退緑、輪紋、果実の奇形を示す株が確認された（図1～8）。島根県農業技術センターでRT-PCR法による遺伝子診断を実施した結果、キク茎えそウイルス（*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)）が検出され、CSNVによるトマト茎えそ病及びピーマンえそ輪点病であることが判明した。

本ウイルスによる病害は、本県では平成20年8月にキク茎えそ病が発生し、特殊報を発表しているが、トマト及びピーマンでの確認は初めてである。国内における両病害の発生は、トマト茎えそ病は平成20年に群馬県で初めて発生が確認され、これまでに15都府県が特殊報を発表、ピーマンえそ輪点病は平成22年に茨城県で初めて発生が確認され、これまでに4県が特殊報を発表している。

- 1 病害虫名 トマト茎えそ病
ピーマンえそ輪点病
- 2 病原名 キク茎えそウイルス
クリサンセマム ステム ネクロシス ウイルス
(*Chrysanthemum stem necrosis virus* : CSNV)
- 3 作物名 トマト、ピーマン
- 4 発生場所 県東部

5 病徴

1) トマト

茎にえそ症状（図1）、葉にえそ症状や退緑、輪紋（図2）、果実に着色不良やえそ、奇形（図3）を生じ、株の生長点付近ではえそ、萎縮、褐変（図4）を生じる。

2) ピーマン

葉に退緑及び輪紋（図5）やえそ斑点症状（図6）、茎にえそ症状（図7）、果実にえそ症状や奇形、株の生長点付近では黄化、萎縮（図8）を生じる。

3) 診断

トマト萎えそ病及びピーマンえそ輪点病は、TSWVによるトマト黄化えそ病及びピーマン黄化えそ病に酷似するため、病徴から病原ウイルスを特定することは困難である。本ウイルスはCSNVに特異的なプライマーを使用したRT-PCR法によって診断が可能である。

6 伝染経路及び宿主範囲

1) 伝染経路

本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマ(図9)により媒介される。本種の1齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、成虫になってから永続伝搬する。また、罹病株を用いた挿し穂等の栄養繁殖による伝染もある。種子伝染や汁液伝染、土壌伝染はしないと考えられる。

2) 宿主範囲

本ウイルスによる病害は、国内ではトマト及びピーマン以外にミニトマト、トウガラシ、キク、トルコギキョウ、アスターで発生報告がある。

7 防除対策

- 1) 発生ほ場では、罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却もしくは埋没処分を行い、二次感染防止に努める。
- 2) 本ウイルスの媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。使用する薬剤は、「島根県農薬情報検索システム <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/shimane>」を参照し、農薬使用基準を遵守する。
- 3) 施設栽培では、開口部に目合い0.4mm以下の防虫網を張り、施設内へのミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- 4) 収穫後の残渣やほ場内及び周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの生息・繁殖場所となるので、残渣処理や除草を徹底する。
- 5) 施設栽培終了後は、密閉して蒸し込み、ミカンキイロアザミウマを死滅させる。

8 その他

- 1) トマト萎えそ病及びピーマンえそ輪点病は農作物に対して被害を与えるもので、人に対して健康被害を与えるものではない。
- 2) 疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所(農業技術センター 資源環境研究部 病虫科:0853-22-6772)に連絡する。



図1 トマト茎のえそ症状



図2 トマト葉の退緑、輪紋とえそ症状



図3 トマト果実の奇形症状



図4 トマト生長点の萎縮、褐変とえそ症状



図5 ピーマン葉の円形退緑及び輪紋



図6 ピーマン葉のえそ斑点



図7 ピーマン茎のえそ症状



図8 ピーマン生長点の萎縮



図9 ミカンキイロアザミウマ